

読解から対話へ 「高瀬舟」を考える



philosophy for children
こどものための哲学



単元の展開と評価(全13時間)

時	主題	ねらい	評価の観点
	事前調査	<ul style="list-style-type: none"> 対話と読解に関する事前調査。 	評価の観点
【一次】 1～2時	新聞記事を読む	<ul style="list-style-type: none"> 「進行役の手引き」を理解することができる。 複数の記事を読み解くことができる。 記事から現代的な安楽死問題を理解することができる。 	IV V
3時	問いの基準を考える (P4C)	<ul style="list-style-type: none"> 良い問いの基準をあげて、問いを選ぶことができる 	II III
4～5時	高瀬舟を読む	<ul style="list-style-type: none"> 小説全体を音読し、概要をつかむことができる。 新しく知った言葉の意味を理解できる。 	I V
6～8時	議論の共有物をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 高瀬舟縁起を読み、鷗外の意図を読み取ることができる。 知足の背景(財産の問題)を理解できる。 庄兵衛、喜助の話から状況、動機、心情を読み取ることができる。 語りの構造を理解することができる。 	II IV
【二次】 1時	問いを選ぶ (P4C)	<ul style="list-style-type: none"> 問いを立て、基準に従って問いを選ぶことができる。 	I II
2～3時 (本時)	読解から対話へ (P4C) 1組のみ1時間	<ul style="list-style-type: none"> 「高瀬舟」について対話し、意見の理由や根拠を明確にすることで読解を深めることができる。 	II III
4～5時	ブックレポート	<ul style="list-style-type: none"> 前時の対話の感想から、必要な情報をまとめ、考えを書くことができる。 	III IV
	事後評価	<p>定期考査</p> <ul style="list-style-type: none"> 小説の語彙の意味に関する問題。 小説の内容読解に関する問題。 小説から問いを立てて論じる小論文問題。 <p>ポスター作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの哲学についてのポスター 	

【評価の観点】

I 国語への関心・意欲・態度

II 話すこと・聞くこと

III 書くこと

IV 読むこと

V 言語についての知識・理解・技能

学級開きでコミュニティボールを作ろう

インテレクチュアル・セーフティ 知的安全を創っていこう！

金澤正治

始業式の日には自己紹介の宿題が小学校ではよくあります。

中には、春休みのしおりに宿題として自己紹介を考えると書かれていることもあります。

「自己紹介を考えてきてね。」

「何を言うの？わからない。」

「自分の好きなことでいいよ。」

「好きな食べ物とか？」

「そんなのでいいよ。好きなスポーツなんかでもいいよ。」

始業式の次の日に順番に前に出て考えてきた自己紹介を話します。

新しい集団の中で緊張しながら話をするのは、子ども達にとって、あまり楽しい経験とは言えないでしょう。

へたをすとうまく言えなかったり、心無い発言に傷ついたりします。

「大きな声で言って。」

「考えてこなかったの。」

こんなマイナスな発言をしてしまう教師もいるかもしれません。

子ども達も、自分が話す番が来るまで、考えてきた自分の話を忘れないように気を取られてしまい、友達の話に耳を傾けなくなります。

何のために自己紹介をするのか、これでは台無しです。

それではどうしたらいいでしょう。

やはり、ここはコミュニティボールを作るのが最善だと私は思います。

私の経験では、対話を交わしながらコミュニティボールと一緒に作っていくということは、みんなで学級を作っていくという最初の共同作業としてとても有効でした。

なぜ有効か？

この作業によって、自分の話を聞いて欲しい、みんなの話を聞きたいという探求の姿勢が生まれ、クラスに知的安全が育まれていくからです。

コミュニティボールを作る時の鉄板ネタ。

「今、はまっていること」

これです。

毛糸と巻きつけるもの等を用意して輪になってセッションを始めます。

椅子に座って作るのは子ども達には難しいので、床に座って輪になる方がいいと思います。輪になって話すと、みんなと視線を合わせて安心して話ができる。一人で立って話すのとは全然違う。

自己紹介する子が毛糸を巻きつけ、隣の人が毛糸を出してあげながら、話を始めます。

最初に、ルールを説明します。

「毛糸を巻きつけてボールを作っている人だけが話すことができ、他の人はその子話を聴く。」これがルール。分った？

「それでは、僕から話すね。僕のはまっていることは宇宙戦艦ヤマト2199のアニメを見ることです。実は、僕はアニメが大好きでこれまでたくさん見てきました。なぜかというところ……。」

教師である僕が本当にはまっていることを熱心に話すのです。

先生がアニメなんてというそのギャップをバカにする子もいますが、「へーそんなことでいいんだ。」という安心感を持つ子がいたり、「僕も好きなアニメ・漫画の話しましょうか。」と話すことを思いつく子がいたりすることになります。

熱心に話すことが大切です。

教師である自分が話し終わった後に、次の子に回します。

「僕は、サッカーが好きです。ガンバ大阪のファンです。」

多分この子は、こう自己紹介して隣の子に毛糸を渡そうとするでしょう。

そこで、教師は

「どうして、サッカーが好きなの？」 「どうしてガンバが好きなの？」

理由を尋ねます。

それを2・3人すると4人目くらいから自然と

「私は〇〇にはまっています。どうして〇〇にはまっているかというと……。」

というように、理由を入れた話になり自然となります。

また、自分の話すことをあらかじめ考えていないので、友だちが何を話すかを聴いて自分の話す事を見つけようとしたり、話し方のまねをしたりという学びがよく見られます。

友だちの話を聴くことによって、考えが生まれたり、話し方を学ぶことができることを体験を通して学び取ることができるのです。

私語をする子がいたり、順番でない子が話し出したりしたら、

「ボールを作っている人だけが話すことができるのだから話さないでね。」

「聴いてくれてありがとう。」

などとファシリテートします。

「ボールを作っている人だけが話せるのだよ。」

この注意を優しく、丁寧に続けます。

「静かに聴いてもらえるとうれしいでしょう。」

「どうして、ボールを持つ人だけが話せるというルールがあるのかな。」

と声をかけていきます。

輪になって話すということは、教室の前に出て一人で大勢と対峙するとは違います。

隣に人がいるということが話す子どもに安心感を与えます。まして、隣の人が毛糸を出して助けてくれるという行為は、より深い安心感を与えることとなります。

また、毛糸をまくという行為も話すための安心感につながっています。うまく話せなくても毛糸をまいていれば、まだその子は話そうとしているのだということを、回りの子ども達も理解できます。すると、「はよ。言えや!」といったせかす言葉もでてきません。

“Not in a rush”という精神が、行為として学べます。

もし、「はよ。言えや!」という子がいたら、「毛糸をまいているのだから、せかさんとかうや。」とか「まったろうや。」と声かけをしてあげたらいいと思います。

そんな感じで、ゆっくりと言葉を介してお互いを知る。共感していくのです。

この体験は探求の共同体の第一歩としてふさわしいと考えます。

コミュニティボールの作り方は p4c japan のホームページに詳しく解説されています。

http://p4c-japan.com/about_tool_ball/

各時の指導（一次第1～2時）

(1) 主 題 新聞記事を読む

(2) ね ら い

- ・ 「進行役の手引き」を理解することができる。
- ・ 複数の記事を読み解くことができる。
- ・ 記事から現代的な安楽死問題を理解することができる。

(3) 教材観・方法観

平成 27 年 12 月 11 日に国語リーダーを放課後に集めて行った進行役インタビュー（「若き進行役の悩み」オンラインで閲覧できる。<https://youtu.be/H0b8E1t3F0Q>）への応答として「進行役の手引き」を作成した。その手引きを音読した後に、議論について考えることが本時の目的である。進行役以外の人にも、良い議論とは何か、そして良い議論のためには具体的にはなにをすべきなのかを共有した。

さらに「高瀬舟」への橋渡しになるブリタニー・メイナードさんについての複数の記事（読売新聞、日本経済新聞、朝日新聞）から問いを立て、良い問いの基準について考える。

(4) 本時の流れ

学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点 ・ 評価
「手引き」の音読	「手引き」を読み、理解する。	音読については、生徒が飽きないように様々な人に当てて、リズムを作りながら進める。
ワークシート	良い議論になるときはどんなときかを記入する。	生徒の書いている様子を見て回り、適宜、指導を行う。
新聞記事音読	新聞記事を読み、理解する。	「高瀬舟」への橋渡しであることを事前に説明する。理解しにくいところは情報を補う。質問があるかどうかを確認し、質問に答える。
問いを作る	記事から自分で問いを作る。	様子を見て回りながら、指導する。
問いを板書	当てられた人は問いを板書する。	机間巡視でランダムに当てて、考えた問いを板書させる。
ワークシート	個人で問いを分類できるかどうか考える。自分なりに良い問いの基準を考える。	余裕があるなら、発表させる。

進行役の手引き

一、経験を積めば、議論は先読みできる

進行をする人は、議論の素材（小説、評論、絵本、詩、映画など）を事前に、こつそりと何度も読んでおけば、議論の助けになります。また、その素材からどんな問いが出るのか、その問いが出たとしたら、どんな議論になるのかを先読みしておくことも非常に重要です。慣れてくるとある程度までは先読みできます。しかし、議論の成否は先読みではなく、先読みをしながら、その場で話されることを大事にして、先読みを修正することにあります。かなり高度な能力ですね。

一、P4Cはセーフティに始まり、セーフティに終わる

道徳の時間に、クラスをシャッフルして議論をしたら、あれ？なんだかいつもと違うから話しくいと感した経験はありませんか。インテレクチュアル・セーフティ（知的な安心感）があれば、自然と話したくなって、周りの人たちにも素直に質問することができます（能力のない人など存在しません。能力が発揮されるかどうか、それだけが重要なのです）。すると、議論は自然と深まっていくはずですが、どうやったら議論がうまくいくのでしょうか。その答えの一つは、普段から、どんなことについても安心して話せる人間関係を作ること、です。

対話と探究が始まるためには、感情的にも、知的にも安全である必要があります。知的に安全な場所には嫌がらせはありません。蔑み、傷つけ、否定し、価値を下げ、嘲ることを意図して発言することは許されません。この場所では、輪になった他のメンバーに対する敬意が存在する限りにおいて、ほとんどどんな質問も、発言も受け入れられます。まず参加者の間の信頼が作られ、そのもとで、難しい問題に対する自分の考えを、初めはどんなにためらっていたとしても、表現する勇気が作られるのです。本当は理解していないのに理解したふりをしている人や、疑問があるのに尋ねることを恐れている人は、その場が知的に安全でないことに影響されています。知的安全とは、探究が育まれる岩盤なのです。知的安全について重要なのは、様々な探究のうちに現れる意見の多様性を認めることです。知的安全のある程度は、この多様性を認め、受け入れることから生まれます。「正しい答えも間違った答えもない」とか「どんな答えでもいい」ということは同じではありません。——D.E. トーマス・ジャクソン「やさしい哲学探究」六十一頁。

一、「人によって違う・場合によって違う」は考えることから逃けているだけ

せつかく問いが出されて（正義とは何か？）みんなが決めたのに「答えは人によって違う」と言い放つ人がいます。それって当たり前ですよ。それは、答え（結論）ではなく、前提です。次の質問は、じゃあ、どこが違うんでしょうか、ということになります。しばしば、他者に直面したくない、実は自分の正しさを堅持したい、という人が単なる相対主義に陥ります。他の人の話に耳を傾けてみてください。そこには自分についての無数の発見があるはずです。

一、意見の単なる羅列は議論ではない

それでは、どんな時に「議論」になるのでしょうか。賛成、反対が出たとき、最後の五分くらいで答えが出たとき。面白い例が出たとき。進行役の介入に反応があったとき。楽しいなって思えるとき。自分なりに考えてみて下さい。

一、無責任な問い・無責任な投票は議論を壊す

議論の巧拙は問いで決まります。抽象的で漠然とした問い(正義とは何か?)は難易度が高い。具体的で狭い問い(貧困な人たちのために盗むのは正義か?)は、難易度は下がりますが、考えたくない人を排除することがあります。

ノリで問いに投票する、ノリで自分の意見を適当に話す(恋愛のこと、性的なことがらが多い)と、誰もその議論に責任をとらなくなり、議論が死んでしまうことがあります。先生が選んだ問いだから、やりにくくなって途中で問いを投げ出してしまうこともあります。それでは、なぜ問いに全員で投票するのでしょうか。

できる限りいつでも、そのコミュニティによる問いや関心から探究が始まります。コミュニティが理解している地点から始め、コミュニティが示す方向へと進むのです。——テーマが実際に自分たちから生まれ、自分たちの興味のままに追いかけてもいいということ子どもたちがひとたび理解すれば、子どもの思考の質は心底驚くべきものになるのです。——D E トーマス・ジャクソン「やさしい哲学探究」六十六頁。

ツツカク的な問いに最もふさわしい基準がどんなものであるのかを理解するのは、直観的には明らかではありません。——(問いをテーマで分類し、問いを選ぶ基準とは何かを議論して決める)——究極的には、対話のための問いを選ぶことはコミュニティ自身の手の中にあるべきです。対話にとって最も良い問いがどれなのかを判断する基準をコミュニティがつくり出した以上、それを適用することもコミュニティの責任なのです。——D E トーマス・ジャクソン「スタートアップキット」二二九—二三〇頁。

問いを選ぶのはすごく難しいです。その問いとは違う次元にいないといけないのですから。

一、「ウォームベッド・クールハート」ではなく「クールベッド・ウォームハート」で

議論をしていると、どうしても頭にくることがあります。前提がすれ違っているだけなのに、なぜか自分のほうに合わせしてくれない、とか。仕方ありません。そんなときには「頭をカッカさせて、心は冷たい状態」になってケンカするのではなく、「頭をいったん冷静にして暖かい寛容の心」で、その人がなぜそう言ったのかを考え続けて下さい。なにか理由があるはずです。そこにまた、あなた自身が成長する鍵があります。

各時の指導（一次第3時）

(1) 主 題 問いの基準を考える

(2) ね ら い

・ 良い問いの基準をあげて、問いを選ぶことができる。

(3) 教材観・方法観

個人で作った問いをランダムに板書し、P4Cの形式で「良い問いとはどんな問いなのか」について議論を行った。問いについてメタ的に思考することが狙い。

(4) 本時の流れ

学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
問いの板書	個人で考えた問いを板書し、番号をつける。	
対話	良い問いはどの問いか、なぜその問いが良いのか、問いは分類ができるかどうか、なぜそのように分類するのかといったことについて話す。	不明瞭な発言があった場合には積極的に質問し、発言の意味を明瞭にする。
問いに投票	議論であげられた基準を頭に置き、投票を行う。	さきほどの議論を思いださせつつ、自分で責任をもって投票することを促す。

問いの形式（オープン or クローズド）だけでなく、問いに含まれる隠された前提、問いの意味の明確化、そのクラスではどうなるかという先読み、共通の知識の地盤を作るための発言、全員で話すことのできる問いとは何か、など多種多様な、優れた、予想外の発言が続出した。これまで経験回数が多いことも影響して、すばらしい結果になった。

良い問いの基準とは？

（原典の書きかきも）
 どれもただで学べばいいから逆に考えよう

一、これまでのP4Cの経験を振り返って、どんなときに良い議論になるでしょうか。考えてみましょう。

賛成・反対の一方の意見にたよらず、真反対の意見が出る議論。
 具体例などが出て、誰にでも理解できる議論。

二、フリタニ・メナードさんの記事から問いを作ってみましょう。

・もし自分が不治の病におかされたら、力を尽くして生きる道を選ぶか、自ら死を選ぶか。

・家族や友人など身近な人に迷惑もかけても力を尽くして生きたいか。

三、板書された問いを分類できるか、試してみましょう。安楽死や尊厳死は悪いことか。

① フリタニさんのような状況にあるとき、生きることをめざらぬずにいるべきか、楽に死なせてあげた（言いか）方がいいのか。

② もし自分の家族が尊厳死を希望したらあなたはどうしますか。

③ 安楽死を認めることにより、自殺を正当化しているか。自殺と安楽死の違い

④ 医療は国家も壊すのか。↓ 社会保障の国が、一本は寿命が医療と連関

⑤ 寝ているときに自己は存在するのか？

⑥ 安楽死を施す医者は殺人罪に問われるのか

⑦ 地域によって尊厳死が認められたいのはなぜか？

⑧ 死は誰が決めるのか？

四、どうやって問いを分類しましたか。基準を上げてみてください。

① ② はい、もしくは自分でどうするか

④ ⑥ は医療や医者にスポットライトが当たる

④ ⑤ ⑧ は心のシンおいてる視点がいろいろ

②と③の問いを少し考え
 しみると止まらなくない、
 YesもNoもどちらも見
 つかぬ、で次のP4Cがとも
 樂しみになりました。身近
 な問いをほかの視点に
 も視野を広げられるよう
 な問いがよいと人生した。

五、良い問いの基準は何でしょうか。考えてみましょう。

① はい、いえと答えられるもの。答えが「はい」としてもの（答えが）
 具体性、抽象的でない、組織ある程度あるもの（答えが）
 議論が深まるもの、具体的であること、似た同じ答えになる！、ではない

良い問いの基準とは？

一、これまでのP4Cの経験を振り返って、どんなときに良い議論になるでしょうか。考えてみましょう。

誰かが良い例えを言ったらそこからそれを話してなかった人が
意見を言う時。

二、ブリタニー・メイナードさんの記事から問いを作ってみましょう。

安楽死は良いものか？

三、板書された問いを分類できるか、試してみましょう。

- ① ブリタニーさんのような状況にある人がいる時、生きることを諦めずに
いづれか楽に死なせてあげに方がいいのか。
- ② もし、自分の家族が尊厳死を希望したらあなたはどうしますか。
- ③ 安楽死を認めることにより、自殺を正当化しているのか？
- ④ 医療は国家を壊すのか。
- ⑤ 寝ている時に自己は存在するのか。
- ⑥ 安楽死をする医師は殺人罪に問われるのか。
- ⑦ 地域によって尊厳死が認められないのは
なぜか？
- ⑧ 死は誰が決めるのか？

～感想～

問いを鑑みればP4Cをやるのは、議題について

話すのと、同じくらい楽しいものだと思います。

議題一つ一つに深い発問があって、おもしろかったです。

四、どうやって問いを分類しましたか。基準を上げてみて下さい。

スケールが大きいかどうか。

P4Cがしやすいかどうか。

当事者意識を持って語るかどうか。

⇔

一人一人の意見を持てるかどうか。

五、良い問いの基準とは何でしょうか。考えてみましょう。

一人一人が違う意見を持ってP4Cをした時に、自分の経験や自分の身うち
をゆりて、起きやすいことと絡めて語る問い。

名前 ()
番 ()
組 ()

各時の指導（一次第4～5時）

(1) 主 題 高瀬舟を読む

(2) ね ら い

- ・ 小説全体を音読し、概要をつかむことができる。
- ・ 新しく知った言葉の意味を理解できる。

(3) 教材観・方法観

特に難しい語彙がちりばめられている小説なので、音読をしながら、文節の切り方などを聞き取り、本当に理解しながら読んでいるかを確認する。

(4) 本時の流れ

学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点 ・ 評価
音読	順番に段落毎に音読していく 特に説明を要する語彙は以下の通り (下線は教科書に注があるので、注を確認)。	理解しているかどうかを確認しながら音読させる。 特に「知足」については、後の議論にも関わるので強調しておく。
遠島 牢屋敷 いとまごい 町奉行 同心 科 獯惡 心得違い 相對死 入相 繰り言 眷族 白州 気色 ようよう 遊山舟 鳥目 おあし 吝嗇 儉約 身代 扶持米 知足 口を糊する 出納 疑懼	年期を定めず島に配する刑罰 牢獄を構えた一区域の土地 ひまをくれるように願い出ること (以下、注は割愛) 罰されるべき行為 道理や人の道に外れた考え方や行い 男女二人が申し合わせて自殺すること 同じ事を繰り返して言うこと 血筋のつながっている者 裁きを受ける庶民が控えた場所 物事のように 次第に、段々 気晴らしに遊びに出かけること おかね、ぜに 出費をできるだけ少なくすること 一身に属する財産 みずからの分をわきまえて、それ以上のものを求めないこと(老子) 金銭や物品を出し入れすること	係累 毫光 時疫 軒下 空引 掘っ立て 小屋 堪忍 刃こぼれ 催促 年寄衆 オオトリ テエ 朧夜 面倒を見なければならない親・妻子 屋根の下 柱を直接土中に埋めて建てた小屋、また、簡単につくった粗末な家 怒りを抑えて、人の過ちを許すこと 刀・包丁などの刃が欠けること 物事を早くするようにうながすこと Authority 権威、権力、支配力 おぼろ月の夜

各時の指導（一次第 6～8 時）

(1) 主 題 議論の共有物をつくる

(2) ね ら い

- ・ 高瀬舟縁起を読み、鷗外の意図を読み取ることができる。
- ・ 知足の背景（財産の問題）を理解できる。
- ・ 庄兵衛、喜助の話から状況、動機、心情を読み取ることができる。
- ・ 語りの構造を理解することができる。

(3) 教材観・方法観

上記のねらいを到達するための問いを並べたワークシートを配布し、まずは個人でそのワークシートを完成させる。その後、小集団活動を行う。その際、一つの問いにつき二つの小集団で検討、発表を行い、高瀬舟の内容を全員で共有する。その後、余った時間で、次時の準備を行う。

(4) 本時の流れ

学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
ワークシート説明	ワークシートに書かれた五つの問いについて個人で思考し、完成させる。	机間巡視を行いながら、問いの意味を十分にくめていない生徒がいないかを観察し、適切な介入を行う。
小集団活動	各小集団がどの問いを担当するかを決める。その後、小集団で議論し、発表の準備を行う。	机間巡視を行いながら、小集団の議論がうまく進むように介入する。
板書の後に発表	小集団の代表者が、全体に向けて小集団の考えを発表する。聞いている生徒は、板書されたこと、口頭で補足されたことを筆記していく。	声量に注意させつつ、内容についても質問や介入を行う。
問いを立てる	個人で問いを立てて代表者が板書する。	次時に、問いを選ぶという活動を行う準備をする。小集団の発表があった直後なので、特に発表から気になったことについて問いを立てる。

議論の共有物 (≡ 共通の地盤) をつくる

一組五番 名前

小集団ごとに「高瀬舟(縁起)」から情報を集めてもらいます。目的は議論の中で使うことです。

一、「高瀬舟縁起」から、森鷗外がなぜ「高瀬舟」を書いたのかを読み取り、まとめてみましょう。

本林 園外が **保身** で、エウロナジイ (安楽死) を話したのだから
従来の道徳 ≡ 苦しませるだけ

「心羽草」にこそまた **男の状況** が エウロナジイ (安楽死) と同じだから

財産と死 苦しみに耐える

→ 疑問

花類はー
かてまかい。

二、「不思議なのは喜助の欲のないこと、足ることを知っていること」(百二十五頁、二行目)とあるが、この場合の「足ることを知る(知足)」とはどういう意味でしょうか。

PI2 4
247

経験をもっていない人は足ることを知っているから幸せである。

↓ 知らないことについて欲は
とままでそこない

喜助は自分が貧しいと自覚している。だから、島流しのとまにもらた
二百文で喜助の喜助を左兵衛は比べてしまった。

→ 弟を殺したことを後悔していない様子

弟は
自分(に)他
を思っている(2)

三、「高瀬舟縁起」に「エウタナジイ」(三行目)とあるが、「高瀬舟」の中ではどのような状況でこの「エウタナジイ」が起こったのか。まとめてみましょう。

喜助が自分の奉行所に連れていかれるまでのいきまつを話している中で
喜助の弟が **病気** になり、助けなかにのが喜助に迷惑をかけるまいと自らの首を
切りに死にまわらう喜助が切腹にあげる念悟のよぶなことをし、こわがいわゆる

「エウロナジイ」である。
喜助が彼の弟に首に取った刺を抜いてくれと頼まれ弟のまらる事を聞き **素直** に
刺を抜いて弟を楽にしてやるうとしたこと

→ 弟に頼まれた

全作者

四、この小説は誰が語っている小説だと言えるか。A作者、B庄兵衛、C喜助の部分とを区別し、その流れから、なぜそのような語りの構造になっているのかを考えてみましょう。

語っている順番は

A → B → C → A → B → C → A

庄兵衛は読者に近い

私たちに一番ちかい立場 → 庄兵衛

(A → B → C)

レトリックの修飾

ナレーション → 庄兵衛 から 喜助 → 喜助の物語

◎ 喜助の「心理描写」は？

五、

「高瀬舟」「高瀬舟縁起」から自由に問いを立て、その問いに答えるのに必要な情報を集めてみましょう

◎ オオトリ下工の中には、喜助が「悪くない」と言う人は一人もいなかったのか。

徳川時代には、江戸の罪人が遠島を言い渡されると、高瀬舟で大阪へ回されていた。(高瀬舟縁起 最落見)

当時のことを半所ほどの間、何回も思い返して、いろいろなことを加えていたため、おめめは、不吉な話であらうから、

班

◎ 「弟がしようとしたことは」「自殺」か「安楽死」か

◎ P129 11行目

自殺は楽ではない死にすぎ、安楽死は自ら死ぬこと。

高瀬舟の縁起では「エウメナジイ」というと、おいてあるけど、

高瀬舟ではいかにもつらそうに死んでいるので、この問いをうけついで、

小林園外自身は安楽死を肯定しているのかを否定しているのか、

人は、安楽死をそこまじらない

議論の共有物 (≡共通の地盤) をつくる

一組十二番 名前

小集団ごとに「高瀬舟(縁起)」から情報を集めてもらいます。目的は議論の中で使うことです。

「高瀬舟縁起」から、森鷗外がなぜ「高瀬舟」を書いたのかを読み取り、まとめてみましょう。

・森鷗外が医者で、ユウタナジイ(安楽死)を訴えたから

・(翁尊)にでてきた男の状況がユウタナジイ(安楽死)と
同じだから

二、不思議なのは喜助の欲のないこと、足ることを知っていること(百二十五頁、二行目)とあるが、この場合の「足ることを知る(知足)」とはどういう意味でしょうか。

先生が言っていた意味は「身の程をわきまえてそれ以上を求めないこと」
これから考えてこの場面では、

「自分があわれな身分であること」を知った上で、今までと米に相当して「暮らしたしてきたこと」
少(鳥目二百文) 鳥流し で喜ぶ

十 「稼いだ金で借りたものをかえし、また借りる。」

二 「自分がどのような身分であるかを知り、

三 「高瀬舟縁起」に「ユウタナジイ」(三二行目)とあるが、「高瀬舟」の中ではどのような状況でこの「ユウタナジイ」が起こったのか。まとめてみましょう。

・喜助が奉行所に連れていかれるまでの、いまこを話している中で、喜助の弟が病氣になり、働けぬたので喜助に迷惑をかけるまいと自らの首を切ったが死に切れず、喜助が切腹における介者のようなことをした。これがいわゆる「ユウタナジイ」である。

・喜助が彼の弟に首に刺さった刺刀を抜いてくれと頼まれ、弟の言うことを聞き、素直に刺刀を抜いて弟は楽にしてやろうとしたこと

四、この小説は誰が語っている小説だと言えるか。A 作者、B 庄兵衛、C 喜助の部分を区別し、その流れから、なぜそのような語りの構造になっているのかを考えてみましょう。

・ A ↓ B ↓ C ↓ A ↓ B ↓ A

私たちに一番近い立場

・ 全て作者

五、「高瀬舟」「高瀬舟縁起」から自由に問いを立て、その問いに答えるのに必要な情報を集めてみましょう。

「弟がしよこしたことは自殺か安楽死か」

「森島外自身は安楽死を肯定しているのか
否定しているのか」

各時の指導（二次第1時）

(1) 主 題 問いを選ぶ

(2) ね ら い

・ 問いを立て、基準に従って問いを選ぶことができる。

(3) 教材観・方法観

全員の問いを印刷して渡し、一人ずつ問いを立てた経緯を説明した後に、どの問いが良いかを議論した。その後に、投票を行い、次時で対話を行う問いを決定した。

(4) 本時の流れ

学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
問いシート配布	目を通す	
問いの意図を発表	問いの意味、なぜその問いを考えたいのかを一人ずつ発表。	不明瞭な発言があった場合には積極的に質問し、発言の意味を明瞭にする。
問いの吟味	どの問いが良い問いなのかを議論。	できるだけ具体的な議論になるように、どの問いについてなのかを発表。
投票	議論の中で登場した論点を頭に置きながら、投票。	さきほどの議論を思いださせつつ、自分で責任をもって投票することを促す。

問いは「意思を考える力が欠如したアルツハイマーの人は安楽死させるべきか」に決まった。議論の途中でアルツハイマーだけのことを想定しているわけではないという発言があったため「意思を考える力が欠如した人は安楽死させるべきか」に修正して議論を行うこととなった。

全員の問いを共有してから、問いの基準を考えて、多数決しましょう。

3 森鷗外はこの物語を描いた中で安楽死の是非をどのようにとらえて、結論をだしたのだろうか？

4 人間は「生きている」といえるか。（「死んでいる」といえるか。） *生きているという状況は？*

4 安楽死は故意の感情か。自然な感情か。

5 喜助の話聞いてきたオオトリテエの中には、喜助は悪くないという人はいなかったのか。

6 安楽死はなぜ認められないのか。

7 死にたいと思っている人に対して本人の意思に従って死ぬのを見る・手伝うか、生き延びさせるか、どちらが本当の優しさか。
殺すことは優しさか。

7 喜助は弟を苦から救ってやろうとして手伝ったのか、働けない弟に死んでほしくて手伝ったのかどちらか。

8 ヒトにとって生死のほうが重いのか。苦楽のほうが重いのか。

(補足：価値観とか「判断の基準にどちらが影響を与えるのか」的な)

9 喜助は本当に安楽死を手伝ったのか。…… *喜助が弟の苦しみを減らすために死なせたという事実の正当性は？*

9 手伝わないから自殺という判断は正しかったのか。 *手伝わないから、本当は殺しては？ 殺しては？*

10 喜助は目が半分あいた弟を見て殺したことにに対してどう思ったのか。

10 従来のも徳では苦しませておくと命じているが苦しんで得るものはあるのか。

11 喜助は弟を殺したといえるのか。

11 庄兵衛は喜助の話聞いて欲のない喜助をどう思ったのか。

12 ^{兄弟} ^{姉妹} もし自分の弟又は妹が「私を殺せ」と言ってきたらどうする？

13 もし兄弟が病気に苦しんでいて死にたい(死ぬまで手伝ってほしい)といったら、あなたはどうしますか。
人間の苦しみや苦しみを減らすか、人間の決定権。

14 意思を考る力が欠如したアルツハイマーの人は安楽死させるべきか。…… *体が弱くは 精神*

14 喜助は弟が死に金が手に入ってすなおに嬉しかったか。 *高齢社会 体の不自由*

14 →喜助の心情ははたしてどうだったか。

15 自殺や安楽死をすると楽になれるのか。

16 森鷗外自身は安楽死を肯定しているのか、否定をしているのか。 *人間の苦しみや苦しみを減らすか 言われない。*

17 もし喜助が帰ってくる前に弟が死んでいたらそれは自殺か安楽死かどちらになるのか。

18 命の価値観は変化してよいのか。…… *人命は？ 後悔する。喜助は後悔する??*

19 経験をしていない人は幸せといえるのか。 *殺しても良い命、殺して後悔する命、殺して嬉しい命。*

19 苦しんでもできる限り長く生きた方がいいのか。

20 喜助の弟はなぜこのような死に至りそんな行動をとったのか。…… *前から来りてい NOT*

20 喜助の弟の死は安楽死か。 *石確定に死ぬ方法*

21 喜助は弟を安楽死させたことで本当に楽になったといえるのか。

後悔するのか、後悔しないのか。

- 22 お金がなければ足ることを知ることができるのか。 *キレガレ。*
- 23 なぜ森鷗外は喜助に心理描写をしなかったのだろうか。
- 24 弟がしようとしたことは「自殺」か「安楽死」か。
- 24 彦兵衛は弟を信頼して抜こうとしたのか。助けたいと思ったのか。
- 25 足ることを知っていることより、喜助は幸せか。 *自分の世かた。*
- 25 弟がしようとしていた事は自殺か、安楽死か。
- 26 喜助は弟を邪魔だと感じたことはなかったのか。
- 26 弟がいなくなることへの利益を考えなかったのか。
- 27 弟の希望で殺した喜助は罪に問われる必要はあったのか。 *喜助が弟を恨んでたとしてもそれは死か。*
- 28 弟からナイフを抜いた後、喜助は後悔したり、悲しい思いをしなかったのか。
- 29 生かすか殺すかは誰が決めるのか。 *喜助の弟を殺すのは、喜助が決めるのか？*
- 29 人間がすべての物事を受け入れ、対応できるのはなぜか。
- 30 殺しに善と悪はあるのか。 *人のために殺すはこと... 善??*
- 30 殺しをして喜ぶ奴は頭がいかれているのか。 *喜助は喜ぶ奴?? お金のことに喜んでいる。*
- 32 「ユウタナジイ」と安楽死の接点と、異なる点は何か。 *ユウタナジイ キ 安楽死*
- 33 弟は死にたかったのか。喜助を試すためか。 *生活 と お金*
- 34 弟は本当に死ぬべきだったのか。 *もし弟が死にたかったら?? 兄のせいで?? 他人の責任が重い*
- 35 医者立場から見たら安楽死は認めるべきことか。
- 36 欲がない人は本当に幸せだと言えるのか。 *弟にせよ 生まれ方... but 本当は??*
- 36 欲がない人と欲が満たされている人の違いは何か。
- 37 喜助は最終的に自分が弟を殺したことをどう思っているのか。(後悔しているのか)。
- 38 人が自らの力で自分を殺すことは何に反しているのか。 *自殺はそれこそ?? どうして死ぬたのかわからない。*
- 39 なぜ従来の道徳は「苦しませておけ」というものだったのか。 *死にたいと思ってる人の 責任尊重。*

- 1、 内1人を殺したら皆が助かる場合。その人を殺すべきか?
 もし自分が殺す立場なら... 言っただけで殺してしまおうぜ。
 殺される立場... いやいや、皆が助かる道でいいぜ。
 となる。
- 2、 身内が兄弟以外のいい状況で、自分の唯一の身内... $\Delta \times \% \square / \nabla \odot \$$
- 31、 喜助はこの後まともな生活はできるのか。

本時の学習（二次第3時）

(1) 主 題 読解から対話へ

(2) ね ら い

- ・ 「高瀬舟」について対話し、意見の理由や根拠を明確にすることで読解を深めることができる。

(3) 教材観・方法観

クラスを話す人たち、聞く人たちに二分する。前者は中心で輪になって議論し、後者はその周りで聞き取ったことについてメモをとり、最後に(5)評価の目安に合致する発言者に評価コメントを渡す。事前に評価の目安を提示することで、相互評価による生徒どうしが高めあうことを目指したい。(研究授業対象のクラスのみ、全員でやりたいという申し出があったため全員で対話を行う)

(4) 本時の流れ

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点 ・ 評価
0	主題とねらい	○本時の主題とねらいを確認する。	
3	振り返り	○記事の内容、小説の内容を確認する。	○現代的な安楽死問題につながる。 ○財産と知足が背景にあること。 ○喜助の動機、状況、心情の確認。
6	進行・ルール確認	○本時の問いを確認する。 ○対話のルールを確認する。	○ボールを持っている人が話す。 ○発言を終えたらボールを次の話者へ。 ○進行は国語リーダーなので、進行を助ける。
10	対話	○進行役は対話の全体を導き、観察する。 ○話し手は、小説に基づいて自分の意見を話す。 ○聞き手は、話される意見をメモしながら対話を聞く。	○様子を見ながら、場合にに応じて進行を助ける。 ・ 話者の声量は十分か。 ・ 理由や根拠は明確か。 ・ 話者が固定していないか、など。 評価:観察とワークシート 小説に基づいて自分の考えを述べる(話)ことができる(話)。対話を追いながら、自分の考えをまとめることができる(聞)。 [II]
45	対話の自己評価とコメント	○本時の対話を自己評価する(話)。 ○評価コメントを渡す(聞)。	○適切なコメントがなされているかを観察。

(5) 評価の目安

II 小説に基づいて自分の考えを述べ、対話を聞いて自分の考えをまとめることができる。

	A	B
話	小説から根拠となるテキストを引用し、表現を工夫しながら自分の考えを述べ、周りとの協力して探究している。	小説について考えたことを述べている。
聞	対話の全体を聞き、コメントを作成しつつ、他の人の考えを参考にしながら、自分の考えをまとめている。	対話を聞き、コメントしている。

(6) 重点をおく「グローバルキャリア人・構成五要素」

理解力	◎思考力	運用能力	◎課題探究力	国際人的素養
複数の資料を参考に表現し、十分に吟味して考えることができる(創造的・批判的思考力)。効果的な問いを考えるために進行を工夫し、よりよい方向性を探ることができる(探究力・協同的解決)。				

各時の指導（二次第 4～5 時）

(1) 主 題 ブックレポート

(2) ね ら い

- ・ 前時の対話の感想から、必要な情報をまとめ、考えを書くことができる。

(3) 教材観・方法観

最後の「書く」活動として、情報を調べてレポートし、さらに自分なりの考察を行うという展開とした。各クラスで対話を行う中で、それぞれの関心に基づいて熱心な議論が展開された。しかし、正確な情報が必要な質問が出たクラスも多かったため、今回はさらに学習を広げるという観点を重視し、出版されている書籍などを調べて、レポート作成を行った。

(4) 本時の流れ

学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点・評価
前時の P4C ジャーナルの返却・振り返り	前回の対話を思い出す。	返却しながら、対話の中でキーポイントになった論点を振り返り、前時を思い出す。
問いを立てる	議論の中で気になったことを記入し、そこから「調べて分かる問い」を個人で記入する。	見て回りながら、調べて分かるか、分からないかをアドバイスを行う。
関心・問いを発表	自分の関心・問いを発表。	どんな文献を調べるべきなのかについてアドバイスする。
宿題	次時までには資料を持ってくる。	
まとめ	資料から情報をまとめ、自分なりの考察を記入する。	まとめ方について適宜アドバイスを行う。

ブックレポート (国語版)

「高瀬舟」のP4Cの経験から、調べてみたい問いを作って調べ、自分の考えを書きましょう。

1. P4Cの中で気になった発言・考え

、何を答えて自殺の結論にた

「案内誰と話しているか多い (百人、401合いの自殺)

2. 調べてみたい問い (調べて答えの出そうな問い)

なぜ日本は自殺の人が多いのか?

3. 情報源 (本が望ましい)

www.lifelink.or.jp , 2/9/2016

4. 情報源の要約 (関心を持った部分をまとめる)

日本は世界で18位 (WHOに据) G8中は2位 OECD中2位 先進國中4位

アメリカの2倍 1717、イギリスの3倍

自殺者は、日本人の死因第6位にたっている。20~45歳の男性、15~35歳の女性では死因の第1位。中高年の自殺率が高く、自殺者全体の6割を占めている。

(動機)

20代、30代、40代、50代の第一原因は、「経済・生活」問題 3位?

①日本 1/16 → 自殺している人 (18,900人程度)

自殺未遂者 → その10倍

Peer pressure 周囲の目
Self harm 自傷
Abortion 中絶

5. 情報源の内容に関して、1の動機から自分の考えを述べる

僕はアメリカと日本との両方に住んだことがあるので、少しづつ文化の違いも分かっています。日本がアメリカの2倍、自殺率が高いという事は、何が文化に関係するのでしょうかと思いました。アメリカの学校で、自傷 (self-harm) をしている知り合いもいました。しかし、死ぬ、というところまで行かないのが多いと思います。また、日本はアメリカと比べてスケジュールが忙しすぎるという感じがします。一つの問題はスケジュール。アメリカは、朝早く、7:50amには授業が始まり、2:40pmには帰宅というスケジュールになっています。それに比べて、日本は同じ8:00amに学校に行っています。5:00pm過ぎから下校、その後直接塾に行き、10:00pmにお家で帰宅という苦しいスケジュールだと思います。それを毎日繰り返すのは難しいのではないでしょうか。夜遅く帰ると、親も疲れて、家族でコミュニケーションをとる人が日本では多くはないと思います。アメリカでは、家に帰ると親は仕事を外に出て友人と遊び、6:00pmくらいで帰ります。コミュニケーションの関わりも活発で、日本と比べての差があるという可能性は低めだと思います。「自殺」まで行かないのが、周りに比べているからだと思います。日本はスケジュールが高まると、なぐさめてくれる人がいないので、自分の考えを自由に言えない環境の中にあるため、全て自分の中に閉じ込めてほうかかっています。

「周囲の重圧による "笑われたらどうしよう"
"信じてくれない"」

日本は相談用の電話番号が複数ありますが、アメリカは多くありません。家族や友人に自分の感情を伝えやすい環境にたっているのが、本当に「死にたい」と思う前に気持ちよく話せることができず、死にたい行く前に止めることができず、死んでしまっているのではないかと感じています。

6. 今後の課題 (自分の考えを補強するためにはさらに何を調べる必要があるかを書く)

アメリカの自殺状況 アメリカの ("Suicide Hotline")
自殺率 地域ごとの生活リズム (国ごと)

ブックレポート (国語版)

「高瀬舟」のP4Cの経験から、調べてみたい問いを作って調べ、自分の考えを書きましょう。

1. P4Cの中で気になった発言・考え

「死にます、という方は死ぬ前に言わないのでは?」
自殺する人の心理状態は?

自殺する人の心理
について

2. 調べてみたい問い (調べて答えの出そうな問い)

自殺する人は 生きたいという気持ちを持っているのか

3. 情報源 (本が望ましい)

インターネット <http://www.ktp-kokoro.jp/lecture/1455>
(福岡大学医学部精神医学教室 衛藤暢明)

4. 情報源の要約 (関心を持った部分をまとめる)

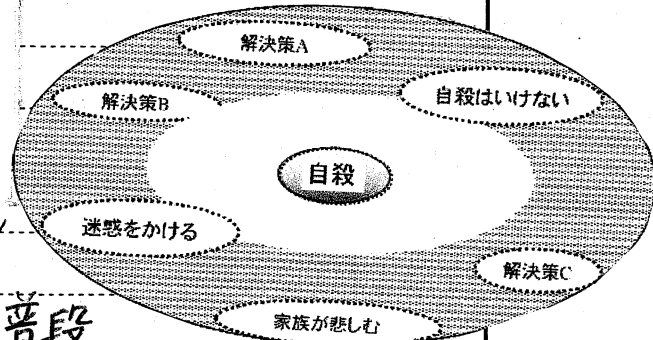
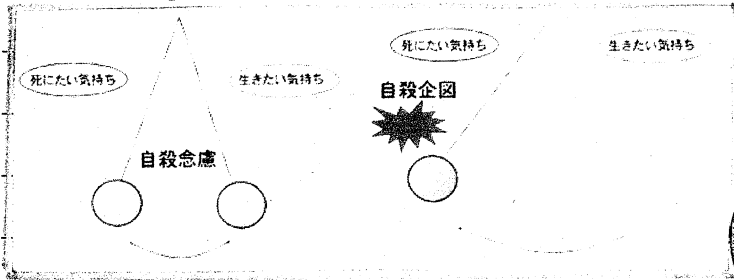
～強く動揺する自殺念慮～

※自殺念慮…死にたいという気持ち

自殺行動におよぶ際、ほとんどの人が死にたいという気持ちだけではなく、一方で生きたいという気持ちを持っています。→両価性
また、死にたい気持ちがそのままずっと続くことはありません。→一過性
この状態はしばしば「振り子」に例えられます。

振り子が振れるように死にたい気持ちと生きたい気持ちの揺れが起こり、揺れが大きくなれば「なるほど」

自殺念慮の段階にどんどん大きくなり、ついには自殺企図に到ります。



～心理的視野狭窄～

心理的な負荷が長く続いた場合に、普段考えられることが考えられなくなり、問題の解決策も見えなくなる状態を指します。この心理的視野狭窄の状態では、苦しい状態を終わらせる手段として自殺しか見えなくなり、その結果自殺行動が起きることになります。

5. 情報源の内容に関して、1の動機から自分の考えを述べる

調べてみると、すでに答えは出て両価性というものがあるということを知ることができました。
情報は振り子のように例えていましたが、その振り子の揺れが大きくなれば"なるほど"心理的な負荷がかかり、心理的視野狭窄になってしまうのではないかと思いました。(

6. 今後の課題（自分の考えを補強するためにはさらに何を調べる必要があるかを書く）

ブックレポート (国語版)

「高瀬舟」のP4Cの経験から、調べてみたい問いを作って調べ、自分の考えを書きましょう。

1. P4Cの中で気になった発言・考え

誰かが「高瀬舟」の話で「弟が殺してくれと言った時に喜助はどうあるべきだったのだろう」と言ってる人がいたから。

2. 調べてみたい問い (調べて答えの出そうな問い)

自殺ほう助は犯罪だがどこからが自殺ほう助になるのか

3. 情報源 (本が望ましい)

<http://park.geocities.jp/funotch/keiho/kakuron/kojinhoneki3/20/202p.html>

4. 情報源の要約 (関心を持った部分をまとめる)

自殺幫助罪は、「人を幫助して自殺させる」罪です。

あてに自殺の決意を有する者に対して、その自殺行為を援助し、これを容易にさせることを意味します。

例えば、自殺の道具を提供するとか、自殺の方法を教えるなどがこれにあたります。「死体、家族の面倒をみてやる」というような精神的幫助も含まれます。しかし、いわゆる「介錯」など他人の自殺の実行に直接手を貸す行為は、自殺幫助ではなく、「同趣殺人罪」にあたります。また、「甲は、Aに死んでほしいと思っていたが、不治の病にかかっているのではないかとバカにしているAに対して『余命は数週間だ。最後は痛みには耐えられなくなる。今のうちに自ら命を絶った方がよい。』と嘘をついて致死量の毒薬を手渡したところ、Aはその言葉を信じて絶望し、その毒薬を服用して死した」という事案では、生命という法益に直接関係するところがあるので、Aの死の意思決定は無知となり、殺人罪が成立することになります。

202年人を教唆し若しくは幫助して自殺させ、又は人をその囑託を受け若しくはその承諾を得て殺した者 → 6月以上7年以下の懲役又は禁錮になる。「同趣殺人罪」は「囑託殺人罪」と「承諾殺人罪」に分けられる。

5. 情報源の内容に関して、1の動機から自分の考えを述べる

高瀬用之は、自殺しなかった弟の最悔を喜助が助けたことで「弟殺しの殺人」と表現されている。昔の書物のため、さりとて罪状は、はっきりと書かれていないが、前ページの情報から考えると喜助は「同意殺人罪」の「囑託殺人罪」にあたりと知られる。しかし、私は喜助が弟に対して行った行為は罪ではないと考える。なぜなら、

6. 今後の課題（自分の考えを補強するためにはさらに何を調べる必要があるかを書く）